

- 問1 日本の三陸沖では、南から北上する暖流の黒潮（日本海流）と、北から南下する寒流の親潮（千島海流）がぶつかり、世界的な好漁場が形成されています。このように、異なる性質を持つ海流が衝突し、多くの魚が集まる海域を何といいますか。（2023年 愛媛県公立入試 類似）
1. 大陸棚
 2. バンク（浅瀬）
 3. 潮目（潮境）
 4. 湧昇流
- 問2 日本国内における生乳の流通と地域の関わりについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2022年 京都府公立入試 類似）
1. 北海道では、広大な牧草地で生産された生乳のほとんどが、液体の状態のまま東京などの大消費地へ飲用向けとして高速輸送されている。
 2. 関東地方では、人口の多い消費地に近接しているという立地条件を活かし、生産された生乳の多くが飲用向けとして出荷されている。
 3. 都市近郊の酪農家は、土地が狭く飼料の確保が難しいため、生乳の生産ではなく子牛の育成と販売を専門に行っている。
 4. 東北地方や九州地方では、生乳の生産量が関東地方より圧倒的に多いため、すべての生乳を一度バターに加工してから全国へ配送している。
- 問3 観光客の実態調査において、居住地、交通手段、宿泊の有無、訪問回数、周遊場所の5項目を調査することの目的として、背景や理由を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2017年 香川県公立入試 類似）
1. 地域の居住人口を正確に把握し、自治体の税収を予測するため
 2. 観光客の流入経路や滞在傾向を分析し、効果的な集客や交通整備に役立てるため
 3. 特定の観光施設における従業員の接客態度を改善させるため
 4. 観光客の所得水準を推定し、高級な土産物の開発を検討するため
- 問4 日本では、1人1日あたりの魚介類消費量が1970年から2018年にかけて減少しています。このような変化が起きた背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）
1. 健康志向の高まりにより、動物性タンパク質の代わりに小麦製品のみを摂取する習慣が定着したため。
 2. 米の消費量が大幅に増加したことで、おかずとしての魚介類が不要になったため。
 3. 国内の漁獲量が減少した結果、政府が国民に対して魚介類の摂取を厳しく制限したため。
 4. 食生活の変化にともない、肉類や乳製品を中心とした欧米に近い食事を好む傾向が強まったため。
- 問5 日本、イギリス、フランスの3か国における「一人当たりの年間取水量」を比較した統計において、日本は約660立方メートルと最も多くなっています。日本において、この取水量のうち約430立方メートルを占め、最も利用割合が高い項目はどれですか。（2017年 広島県公立入試 類似）
1. 農業用水
 2. 工業用水
 3. 生活用水
 4. 発電用水
- 問6 北海道では、さけの卵を人工的に受精させて稚魚を育ててから川へ戻したり、海に人工的な魚礁（ぎょしょう）を作って魚が集まりやすい環境を整えたりする活動が盛んです。このように、人の力で水産資源を増やし、自然の海で成長したものを捕る漁業の形態を何といいますか。（2021年 徳島県公立入試 類似）
1. 栽培漁業
 2. 養殖漁業
 3. 沿岸漁業
 4. 遠洋漁業
- 問7 主要国の農業統計において、アメリカやフランスなどが100%を超える高い数値を示す一方、ある国は「国土面積に占める農地の割合」が約12%、「穀物自給率」が約21%（2011年）と、際立って低い数値を示している。この国として当てはまるものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）
1. 日本
 2. アメリカ
 3. オーストラリア
 4. フランス
- 問8 日本の貿易統計において、成田国際空港の貿易額（輸出入額）が全国の主要な港の中でも常に上位にある理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 航空機による輸送は、大型の船舶よりも一度に大量の貨物を運ぶことができるため、鉄鉱石や原油といった重量のある資源を効率よく運べるから。
 2. 航空輸送は海上輸送よりも燃料費が安く抑えられるため、小麦や大豆などの安価な農産物を大量に輸入する際の主流となっているから。
 3. 近年、環境保護の観点から海上輸送が制限されており、日本に輸入される自動車や機械類のほとんどが航空輸送に切り替わったから。
 4. 航空機による輸送は、海上輸送に比べて費用は高いが高速であるため、IC（集積回路）のような軽量で高価な製品や、鮮度が求められる商品の輸送に適しているから。
- 問9 日本の工業において「産業の空洞化」が進んだ主な理由と、それによって国内で生じた課題の説明として最も適切なものはどれですか。（2022年 大阪府公立入試 類似）
1. 先端技術を持つ人材が不足したため、単純作業を行う工場を意図的に海外へ売却し、国内を情報通信業に特化させた。
 2. 生産コストの安い海外へ生産拠点を移したことで、国内の工場の閉鎖や雇用機会の喪失を招いた。
 3. 海外からの輸入製品が減少したことに対応するため、国内の工場を海外企業に貸し出し、その賃貸料で利益を得る構造に変化した。
 4. 日本の労働賃金が世界的に見て非常に安くなったため、熟練の技術者が海外の工場へ引き抜かれ、国内の技術伝承が途絶えた。
- 問10 九州地方において福岡県は、年間の商品販売額が最も多くなっています。このように、都市部で経済を支える中心となっている小売業、卸売業、サービス業などのように、形のないサービスを提供する産業を総称して何と呼びますか。（2016年 岡山県公立入試 類似）
1. 第3次産業
 2. 第1次産業
 3. 重化学工業
 4. 第2次産業
- 問11 三大都市圏への人口集中と、それに伴って発生している地域的課題についての説明として、背景や影響を正しく述べているものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）
1. 三大都市圏では地価の下落によって住宅不足が解消されたが、地方では農業の機械化によって労働力が過剰となり、都市部へ職を求める人が再び急増している。
 2. 東京や大阪に人口が集中した結果、名古屋圏では人口が減少に転じており、工業地帯での労働力不足が全国で最も深刻な社会問題となっている。
 3. 東京・大阪・名古屋への人口集中により、都市部では住宅不足や交通渋滞が発生する一方、農村部では若者の流出により過疎が進み、生活機能の維持が困難になっている。
 4. 三大都市圏への人口集中を解消するために地方へ移住する若者が急増した結果、現在は都市部における急激な人口減少と空き家問題が最も優先すべき課題となっている。
- 問12 日本国内の旅客流動において、東京を目的地とする移動手段を調査したところ、愛知県からの移動では鉄道が圧倒的に多く利用されている一方、福岡県や北海道からの移動では航空機の利用者が非常に多いという結果が見られました。このような、移動距離によって利用される交通手段が変化する傾向について、正しい説明はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）
1. 移動距離が長くなるほど、途中下車が可能な鉄道の利用が増える傾向にある。
 2. 移動距離が長くなるほど、速い航空機の利用割合が高まる傾向にある。
 3. 移動距離が短いほど航空機が優先され、所要時間の短縮が図られる。
 4. 移動距離に関わらず、運賃の安さから常に鉄道が第一の選択肢となる。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 潮目（潮境）	暖流である黒潮と寒流である親潮がぶつかる場所では、それぞれの海流に乗って回遊する多様な魚種が集まります。また、性質の異なる海水が衝突することで海水がかき混ぜられ、深層から栄養分が浮上してプランクトンが豊富に発生するため、それを餌とする魚が多く集まる好漁場となります。三陸沖はこの現象が顕著であり、世界三大漁場の一つに数えられています。
問2	答え 2 関東地方では、人口の多い消費地に近接しているという立地条件を活かし、生産された生乳の多くが飲用向けとして出荷されている。	酪農の形態は、消費市場との地理的關係によって大きく左右されます。関東地方などの都市近郊で行われる酪農は、新鮮な牛乳をすぐに消費者に届けられるメリットがあるため、飲用向け牛乳の供給源としての役割を担っています。これに対し、北海道などの遠隔地では、生産量は非常に多いものの、液体のまま大量に輸送するとコストがかさみ鮮度も低下するため、加工して保存性を高める乳製品加工が産業の中心となっています。
問3	答え 2 観光客の流入経路や滞在傾向を分析し、効果的な集客や交通整備に役立てるため	居住地や交通手段を知ることで「どこから、どうやって来たか」という流入経路が判明し、宿泊の有無や周遊場所を知ることで「地域でどのような行動をとったか」という滞在傾向が明らかになります。これらの情報を分析することで、特定の地域をターゲットにした広告宣伝や、混雑を解消するための交通インフラ整備など、戦略的な観光振興施策を立案することが可能になります。
問4	答え 4 食生活の変化にともない、肉類や乳製品を中心とした欧米に近い食事を好む傾向が強まったため。	日本人の食生活は、時代とともに「食の欧米化」が進んできました。これにより、伝統的な魚を中心とした和食のスタイルから、肉類を多く摂取する食事へとシフトしたことが、魚介類の消費量減少の大きな要因となっています。また、調理の簡便さから肉料理が選ばれやすくなったという側面もあります。
問5	答え 1 農業用水	日本の水利用は、伝統的な産業である稲作と深く結びついています。イギリスが生活用水、フランスが工業用水の割合が高いのと対照的に、日本では水田に大量の水を張る必要があるため、取水量の大部分が農業目的で使用されています。これは日本の気候や食文化、土地利用の歴史を反映した特徴です。
問6	答え 1 栽培漁業	北海道のさけのように、卵を人工受精させてから放流し、数年後に戻ってきたところを漁獲する取り組みは、水産資源を計画的に増やすための重要な手段です。稚魚を外敵の少ない環境で一定期間育てることで、自然界でそのまま生まれるよりも生存率を高め、効率的に資源を確保することができます。
問7	答え 1 日本	提示された数値（農地割合約12%、穀物自給率約21%）は、日本の農業の特徴を如実に表しています。アメリカ、フランス、オーストラリアなどの国々は広大な農地を持ち、穀物輸出国であるため自給率も100%を大きく超えますが、日本は山地が多く農地が狭いうえ、穀物の多くを輸入に依存しているため、他国と比較して数値が低くなります。
問8	答え 4 航空機による輸送は、海上輸送に比べて費用は高いが高速であるため、IC（集積回路）のような軽量で高価な製品や、鮮度が求められる商品の輸送に適しているから。	交通手段にはそれぞれ特性があり、航空機を用いた輸送は「運賃は高いが到着が非常に早い」という特徴があります。このため、輸送コストを負担しても利益が出る「軽量で高価な精密機器（ICなど）」や、時間が経過すると価値が下がる「鮮度が重要な商品（切り花、医薬品、高級食材）」の輸送に利用されます。成田国際空港はこれらの品目を多く扱うため、貨物の重量に対して貿易額が非常に大きくなる傾向にあります。
問9	答え 2 生産コストの安い海外へ生産拠点を移したことで、国内の工場の閉鎖や雇用機会の喪失を招いた。	1980年代半ば以降の円高により、日本製の製品は海外での価格が高くなり売れにくくなりました。そこで企業は、賃金が安く広大な土地を確保しやすいアジア諸国などに進出し、現地で生産する方式をとりました。これにより、国内の製造業の比重が下がり、特に工業団地を抱える地域において、雇用が失われ産業が衰退する原因となりました。
問10	答え 1 第3次産業	産業は、自然から資源を採取する農業・漁業などの第1次産業、それらを加工する工業・建設業などの第2次産業、そして形のないサービスや情報の提供、商品の流通を担う第3次産業に分類されます。都市部では、人口の集中に伴い小売業やサービス業の需要が高まるため、第3次産業が産業構造の大部分を占めるようになります。
問11	答え 3 東京・大阪・名古屋への人口集中により、都市部では住宅不足や交通渋滞が発生する一方、農村部では若者の流出により過疎が進み、生活機能の維持が困難になっている。	高度経済成長期以降、利便性や雇用を求めて三大都市圏へ人口が集中しました。これにより都市部では過密による生活環境の悪化が、地方では過疎による生活サービスの維持困難という、対照的な問題が同時に発生しています。特に過疎地域では、高齢化と相まって伝統行事の継承や災害時の対応が難しくなるなどの影響が出ています。
問12	答え 2 移動距離が長くなるほど、速度の速い航空機の利用割合が高まる傾向にある。	旅客の移動手段の選択には、目的地までの距離と所要時間が大きく関係しています。東京から比較的距離に近い愛知県などの近距離・中距離移動では、運行本数が多く駅へのアクセスも良い新幹線などの鉄道が有利になります。一方で、福岡県や北海道のような遠距離移動では、鉄道では移動時間がかかりすぎるため、移動時間を大幅に短縮できる航空機のシェアが高まるという特性があります。